談話室

名門高等教育機関Montpellier SupAgroによるワインと協同組合に関する研究の最先端

──「ワイン農協のガバナンス改革プロジェクト」とは──

フランス・モンペリエ国立農業科学高等教育国際センター(Montpellier SupAgro、以下「MSA」)は、1848年の創立以来、長い歴史がある。そのなかで、MSAはフランスの公設機関として、農業、食料、そして環境についての高等教育や研究に従事してきた。

MSAの名を世界に知らしめたのは、ワイン用葡萄栽培に関する病害対策、フィロキセラ対策(注1)および葡萄品種学の研究である。また、ワイン醸造学の分野でも、マセラシオン・カルボニック(注2)の発明等の優れた業績が有名である。さらに、MSAのワイン葡萄栽培及びワイン醸造の高等教育機関(IHEV)は、ワイン葡萄栽培とワイン醸造についての高等教育のほか、最先端の研究成果の普及と実用化、また営農指導に取り組んでいる。

現在、MSAは国際化を進め、日本を含む世界の160か国以上とのネットワークを構築している。このような国際的なネットワークは南欧や地中海地域を拠点としており、これらの地域に関して名のある専門家が参加する連携体制が広がっている。例えば、MSAは、その歴史あるキャンパスをフランス国立農学研究所INRAのオクシタニー地域モンペリエセンターに開放し、共同利用を進めている。

MSAは、欧州内での大学生、大学院生や研究者の交流促進プログラム(LMD)枠内としての大学生や大学院生向け、または専門家向けに、2つのエンジニアコースを含む多様な教育プログラムを提供する。講師は100人おり、その80人は研究の最前線にいる教授や研究者である。さらに、そこで学ぶ1,600人の29%は、外国からの参加である。これに関連して、経済学部、経営学部、社会科学部は、emリヨン・ビジネス・スクールと連携し、農業と食品に関する高等教育プログラムを設置している。さらに、ユネスコのチェア(講座)事業として、「世界フードシステム」「AgroTIC(デジタル農業)」「AgroSYS(持続可能な農業システム)」、そして「Elsa-PACT(ライフサイクル持続可能性評価(注3))」という4講座が設置されている。

ワイン用葡萄栽培とワイン醸造に関する研究として、「M-WineS」が18年に始まった。これは、モンペリエ大学が主導し、MSAも参加する研究コンソーシアムである。この例にみるように、他品目よりもワインでは、近年、バイオベース経済(注4)や持続可能性に関する研究が一層増えており、それらはMSAが最も得意とする分野である。

農協に関する研究としては、「ワイン農協のガバナンス改革プロジェクト Inno-Gov Wine Co-ops」が18年末に始まっており、以下にて説明したい。これは、

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

MSAが関連する研究ユニットMOISA(注5)が手掛けるプロジェクトのひとつであり、MSAの准教授である私と、バレリー・セカルディ博士が研究代表となっている。

同プロジェクトは、フランスのワイン農協における内部ガバナンスとワインに関する技術革新の相互関係に焦点をあて、農協の経営を持続可能にするための要素を明らかにする。チームは20人の研究者から構成され、経営学、経済学、遺伝子学、環境学、そして情報処理学の専門家が学際的なアプローチを試みる。各分野の専門家は密に連携し、ワイン農協の内部ガバナンスのあり方をダイナミックに描き出す。そして、技術革新としては、環境に優しい農業や耐病性品質の改良のあり方、またスマート農業に注目する。

現状では、グローバル化による超競争市場が30年間続き、フランスのワイン農協の組合数は、合併や解散で半減した。現存する550組合は、ワイン醸造量で国内の45～50%のシェアを保持しているが、今後は全く新しい戦略の策定を迫られている。そして、そこでの焦点は以下の３点と考えられる。

①内部ガバナンスシステムの柔軟化、進化そして適応化

②競争力を高め、かつ一層環境保全的であるための技術革新の展開

③価値創成のための無形資産への投資の強化

具体的に、研究プロジェクトでは、以下の２項目を実践する計画である。

ⓐ定性的な調査：30～50組合へ聞き取り調査を実施し、内部ガバナンスと技術革新の相互関係を解明

ⓑ定量的な調査：協同組合における内部ガバナンスと技術革新の相互関係が、無形資産への投資や業績に与える影響を分析

このように、研究プロジェクトの対象は広く、期間も３～４年と長い。このことから、農協の内部ガバナンス、技術革新、そして業績に関し興味を持ち、研究チームと協働する意欲のある国際的なパートナーを歓迎する。その際に、ワインと他の品目との比較が行えれば、この研究プロジェクトを一層興味深く、また示唆に富むものにしてくれると考えている。研究プロジェクトは開始したばかりだ！

（注１）フィロキセラ対策については、本誌の内田論調を参照。

（注２）ボジョレー・ヌーボー等の醸造方法で、破砕しないまま葡萄をタンクに入れ、葡萄自体の重みで圧搾された果汁により自然発酵させる方法。

（注３）環境、社会、経済に対する製品の影響を、その製品のライフサイクル全体から評価。

（注４）オランダ・ワーゲニンゲン大学ウェブサイトによると、石油依存度ではなく植物依存度を高めることで、持続可能性や効率性を高めた経済のこと。

（注５）市場、組織、制度に関する共同研究ユニット。MSAと他の研究機関の研究者で構成。

（モンペリエ国立農業科学高等教育国際センター 准教授
ルイ=アントワーヌ・サイセ（Dr. Louis-Antoine SAÏSSET））

（本稿は、（株）農林中金総合研究所の責任において翻訳・編集したものである。）

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/